

菊澤研宗さんの 【再考・資本主義】



講師

慶應義塾大学商学部教授

菊澤 研宗 Kenshu Kikuzawa

【ハイブリッド】

丸の内キャンパス、オンライン(Zoom)いずれでも参加可能です。ご希望は事前にお伺いします。今後の状況によって【オンラインのみ】に開催形態を変更する場合があります。

名著を通して考える

資本主義の限界をめぐる議論が喧伝されていますが、その多くは貧困、格差、環境、人権問題など現代社会の病根の多くが(株主)資本主義によって生み出されたのではないかという問題意識に帰結します。この資本主義の限界については、ウェーバーやシュンペーター、ドラッカーなどの著書を見れば、100年以上も前から予見されていたことがわかります。

古今の名著をじっくりと読み解き、資本主義の問題点を理解すると共に、これからの新しい資本主義のあり方について皆さんと議論したいと思います。

資本主義をめぐる現代の諸問題と関連付けながら、各回の課題図書を解説します。事前に読む必要はありません。講座終了後、手に取って理解を深めていただければと思います。

菊澤 研宗

5・13 | 土

14:00-17:00

マイケル・サンデルと 資本主義

マイケル・サンデル『それをお金で買いますかー
市場主義の限界』(早川書房 2012年)

1

マイケル・サンデルは、あらゆるものを市場取引に乗せることによって、倫理的、道徳的に大事なものが失われていく、あるいは腐敗していくのではないかと指摘した。たとえば「赤ん坊市場」や「血液市場」が現実化すると、伝統的な養子縁組や献血といった人間社会の利他的な美德すら消滅してしまう可能性がある。このサンデルの指摘について考える。

6・24 | 土

14:00-17:00

ジョセフ・A・シュンペーターと 資本主義

シュンペーター『新装版 資本主義・民主主義・社会主義』(東洋経済新報社 1995年)

4

「イノベーション」の提唱者シュンペーターは、資本主義が成功・成熟するにつれ、政府介入への抵抗力を持っていた自立した中小企業が駆逐され、大企業の支配が強まる。その結果として、政府の介入を招く国家管理型の資本主義に変容することを予見した。このシュンペーターの考えについて議論する。

5・27 | 土

14:00-17:00

マックス・ヴェーバーと 資本主義

マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と
資本主義の精神』(岩波文庫 1989年)

2

マックス・ヴェーバーは、19世紀初めに資本主義がどのような経緯で成立したかを分析するとともに、その行く末として、道徳や温かみのない、冷たい「鉄の檻」のような組織に行きつくと言言した。彼の予言した資本主義の行く末と、現代の社会の諸問題を重ねてみると、資本主義に欠けているものを的確に見抜いていたと言えるかもしれない。このヴェーバーの予見について議論する。

7・8 | 土

14:00-17:00

宇沢弘文と資本主義

宇沢弘文『社会的共通資本』(岩波新書 2000年)

5

日本の経済学者宇沢弘文はフリードマンに代表される市場原理主義を厳しく指弾した。利益のためなら何をして構わないという風潮が広まり、人間の尊厳や自然への配慮が失われることを危惧していたためである。つまり経済成長と人間の幸せが必ずしも一致しないことに気づいていたとも言える。この宇沢の考えについて議論する。

6・10 | 土

14:00-17:00

ピーター・F・ドラッカーと 資本主義

P.F.ドラッカー『「経済人」の終わり』(ダイヤモンド社
2007年)

3

マネジメントの発明者と言われるドラッカーは、デビュー作において、産業革命後に生まれた資本主義は全員を幸せにするのではなく、資本家だけが儲かるブルジョア資本主義に陥り、その終焉がファシズムを生み出したと分析した。このことは現代世界の極右勢力の台頭やトランプに代表される覇権型リーダー待望論と酷似している。このドラッカーの議論について考える。

7・22 | 土

14:00-17:00

クラウス・シュワブと ステークホルダー資本主義

クラウス・シュワブ、ピーター・バナム『ステークホルダー資本主義-世界経済フォーラムが説く、80億人の希望の未来』(日経ナショナル ジオグラフィック 2022年)

6


世界経済フォーラムの創設者で現会長のクラウス・シュワブが提唱した「ステークホルダー資本主義」が注目を集めている。企業は株主だけでなく従業員や取引先、顧客、地域社会といったあらゆるステークホルダーの利益に配慮すべきというもので、国連のSDGsの考えにも合致している。岸田首相が提唱した「新しい資本主義」政策にも影響を与えていると言われるこのステークホルダー資本主義を理解すると共に、これからの資本主義のあり方について考える。

講座の進め方

講師による講義と、事前課題の共有・ディスカッションを中心に進めます。事前課題は各回の設問にしたがってできるところまで結構です。ご自分なりに考えをまとめてみてください。

講師からのフィードバックやクラスディスカッションでより考えを深めます。

開催概要

日程	2023年 5/13、5/27、6/10、6/24、7/8、7/22 (すべて土曜日)
開催形態	ハイブリッド(丸の内キャンパス・オンライン)
回数	6回
時間	14:00-17:00(3時間)
定員	25名
会場	慶應丸の内シティキャンパス／オンライン
参加費	110,000円(税込)
おすすめしたい方	・現代の資本主義に問題意識を持っている方 ・資本主義に関わる古今の名著について理解を深めたい方 ・これからの新しい資本主義のあり方を考えたい方
申込み	http://www.sekigaku-agera.net/ 

講師プロフィール

菊澤 研宗(きくざわ けんしゅう)

1957年生まれ。1986年慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了。防衛大学校教授、中央大学大学院国際会計研究科教授を経て現職。その間、ニューヨーク大学スターン経営大学院客員研究員(1年間)、カリフォルニア大学バークレー校客員研究員(2年間)として在外研究に従事。専門領域は経営学、組織の経済学、比較コーポレート・ガバナンス論、ダイナミック・ケイパビリティ論。

主な著書

- 『ビジネススクールでは教えてくれないドラッカー』(祥伝社新書)
- 『指導者(リーダー)の不条理 組織に潜む「黒い空気」の正体』(PHP新書)
- 『戦略の不条理 変化の時代を生き抜くために』(中公文庫)
- 『命令の不条理 逆らう部下が組織を伸ばす』(中公文庫)
- 『改革の不条理 日本の組織ではなぜ改悪がはびこるのか』(朝日文庫)
- 『組織の不条理 日本軍の失敗に学ぶ』(中公文庫)
- 『D.J.ティース ダイナミック・ケイパビリティの企業理論』(翻訳・中央経済社)
- 『成功する日本企業には「共通の本質」がある「ダイナミック・ケイパビリティ」の経営学』(朝日新聞出版)
- 『戦略学—立体的戦略の原理』(ダイヤモンド社)

講座の開催方法およびキャンパスにお越しになる皆様へのお願い

本講座は【ハイブリッド】形態で開催いたします。ただし今後の状況により【オンラインのみ】に開催形態を変更する場合があります。お申し込みにあたっては、下記開催形態およびキャンパスへお越しになる皆様へのお願いをご確認の上、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【ハイブリッド】



ハイブリッド開催とは

- ・丸の内キャンパス、オンライン(Zoom)いずれでも参加可能です。
- ・参加方法は毎回選択していただけます。ご希望は開催前にお伺いします。

オンライン参加について

- ・オンライン会議システム「Zoom」を使って配信します。
- ・パソコン(またはスマートフォン、タブレット)およびインターネット環境があれば、どこからでもご参加いただけます。
- ・Zoomを初めてご利用の方には操作方法をサポートいたします。

キャンパスにお越しになる皆様へのお願い

- ・事前に体調を確認の上お越しください。発熱、咳などの症状、体調不良、また過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国や地域に訪問歴がある場合はご来場をお控えください。
- ・マスクの着用をお願いいたします。
- ・手洗いや備え付けの消毒液のご使用、咳エチケットのご協力をお願いいたします。

会場の感染予防措置

- ・講師およびスタッフのマスク着用、手指消毒、体調管理の徹底
- ・教室共用部分の清掃、消毒(机、椅子背もたれ、ドアノブ等)
- ・アルコール消毒液の設置
- ・可能な限り間隔を開けた座席配置
- ・常時空調換気と適宜教室扉の開放換気

お問い合わせ 東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル10階 株式会社慶應学術事業会
TEL:03-5220-3111 info@keiomcc.com



今後の状況によっては対応施策が変更となる場合がございます。ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。